

第7次鹿角市総合計画のまちづくり戦略

基本戦略①

活力を生む地域産業・生業を支える

- 産業の自力を強化し、安定的な雇用を創出します。
- 働きやすい就労環境づくりを進め、働く意欲のある方の就労を支援します。
- 市内就職につながる環境づくりにより、企業の人材確保を支援します。



数値目標	基準値	目標値 (R12)
1人当たり市内総生産	2,956 千円 (H29)	3,500 千円
地元産業(会社、店舗、農業など)が元気で活力があると思う市民の割合	19.5% (R1)	50.0%

基本戦略③

快適で安らぎのある暮らしを守る

- 水道水の安定供給や生活排水対策を進めます。
- 安全な住宅づくりや遊休建築物、土地の適正管理を推進します。
- 地域の実態を踏まえ、公共交通を利用しやすくします。
- ごみの減量化と廃棄物の適正処理を進めます。
- 魅力ある里山の環境を保全します。



数値目標	基準値	目標値 (R12)
生活環境が快適なまちだと思う市民の割合	49.7% (R1)	60.0%

基本戦略⑤

未来に羽ばたく人材を育てる

- 子どもが自ら育とうとする力を支援し、生きる力を育みます。
- 地域の特色ある教育活動により、未来を切り拓いていくことのできる教育を充実します。
- 生きがいや喜びを地域に還元できるまちづくりを進めます。



数値目標	基準値	目標値 (R12)
将来の夢や目標をもっている児童生徒の割合	84.2% (R1)	86.0%

経営戦略②

「世界遺産のまち」をつくる

- 「世界遺産のまち」として全国・世界に認められる地域を実現します。
- 伝統文化、伝統芸能の保存継承や情報発信を推進します。
- 地域への誇りを高め、世界遺産に惹かれて集まる人々の目的地となることで新たな文化を創造します。



数値目標	基準値	目標値 (R12)
文化遺産が豊富で誇れるまちであると思う市民の割合	51.3% (R1)	60.0%

基本戦略②

元気で健やかな暮らしを支える

- 元気で健康に暮らせるまちづくりを推進します。
- 診療体制の充実や近隣地域との医療連携体制を構築します。
- 結婚や子育ての希望を実現するため、包括的に支援します。
- 障がいや国籍にかかわらず、心豊かに暮らせる共生社会を目指します。



数値目標	基準値	目標値 (R12)
健康寿命	男性 77.94 年 女性 83.32 年 (H29)	男性 81.60 年 女性 87.60 年
出生数 (10 年間)	-	1,407 人
心身ともに健康で暮らせていると思う市民の割合	58.7% (R1)	70.0%

基本戦略④

暮らしの安全・安心を高める

- 安心して過ごせるまちづくりを進めます。
- 河川、道路、橋りょうなどの整備・維持管理を進めます。
- 自助、共助による防災・減災に向けた取り組みを進めます。
- 犯罪や交通事故のない安全なまちづくりを進めます。



数値目標	基準値	目標値 (R12)
安全で安心して暮らせるまちだと思う市民の割合	77.6% (R1)	80.0%

経営戦略①

まちに人・モノ・外貨を呼び込む

- 関係人口の拡大や大学などとの交流を推進します。
- 比較優位産業の農業や観光振興により、外貨獲得を図ります。
- スキーと駅伝のまちを生かした交流人口の拡大を図ります。
- 次世代産業の創出に取り組みます。
- 再生可能エネルギーへの転換を図ります。



数値目標	基準値	目標値 (R12)
直近 5 年間の人口の社会増減の累計	1,053 人減 (H27-R1)	1,015 人減
観光消費額 (年間)	-	5,502 百万円
市外から人が訪れたい魅力のあるまちだと思う市民の割合	23.4% (R1)	50.0%

経営戦略②

まちの経営力を高める

- 効率的な財政運営に努め、市民の思いや願いを実現できるまちづくりを推進します。
- 未来技術で社会に役立つ仕組みや価値を構築します。
- お互いの知恵と力を生かした地域づくりを推進します。
- まちなかエリアを中心に都市機能の充実を図ります。



数値目標	基準値	目標値 (R12)
実質公債費比率 (直近 3 年間の平均)	8.0% (H28-H30)	18.0% 未満
自分に必要な行政サービスが受けられていると思う市民の割合	59.8% (R1)	70.0%

都市経営の視点で取り組むべき5つの経営戦略

第7次鹿角市総合計画 基本構想を策定

将来都市像

ふるさとを誇り 未来を拓くまち 鹿角



政策企画課 総合戦略室 ☎30-0201

新たな鹿角のまちづくり指針

市では、今後のまちづくりの方向性を示す新たな総合計画「第7次総合計画」を令和3年度からスタートさせるにあたり、目指すまちの姿とその実現に向けた戦略などを示す「基本構想」を定めました。

第7次総合計画では、将来都市像を「ふるさとを誇り 未来を拓くまち 鹿角」とし、すべての市民がふるさとに誇りを持ち、ふるさと鹿角の価値を最大限に生かしながら、新たな時代に自分らしくチャレンジすることで、市民一人ひとりが幸せで、未来に希望を抱いて暮らせるまちの実現を目指します。

将来都市像の実現に向けた戦略は、健康で文化的な暮らしの基盤をつくる基本戦略を、産業・福祉・教育などの5つとし、自然・産業・歴史文化など本市の強みを最大限に引き出し、都市の経営力を高める経営戦略を3つとしています。「暮らしを守る基本戦略」と「都市経営の視点で攻める経営戦略」との両輪で暮らしの幸福度を高め、自立した持続可能なまちを確立していきます。

総合計画とは

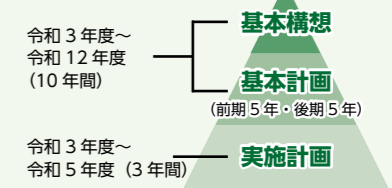
長期的な視野でまちづくりの方向性を示す

「総合計画」は、長期的な展望に立ち、市民や企業、行政が一体となって進める今後のまちづくりの方向性を示すもので、市のまちづくりの最も基本となるものです。

【総合計画の構成と期間】

「基本構想」は、10年を期間として目標とする将来都市像やまちづくりの理念を明らかにします。「基本計画」は、その目標達成のために前期後期の各5年間で取り組む施策の大きな方向を示します。「実施計画」は、その方向に沿い、3年間(毎年度見直し)に取り組む事業を具体的に示します。

総合計画の構成



人口の将来展望 社会減と自然減の抑制を目指す



人口の将来展望

基本構想の策定にあたり、平成27年に策定した「鹿角市人口ビジョン」を改訂し、これまでの施策効果や社会経済情勢の変化などを踏まえ、改めて将来人口を展望しました。

新たなビジョンにおいては若者世代を中心とした転出抑制と移住促進によって社会減少を抑制するとともに、結婚・出産・子育ての支援充実によって自然減少の抑制を図りながら、年少人口(0~14歳)比率が安定し、生産年齢人口(15~64歳)が老年人口(65歳以上)を上回る持続可能な社会を展望しています。